

もう空になつた、豪い早いや無いか、何ぢやテ、嘶家が来て飲で仕舞ひよつた、嘶家は皆よふ飲よる依て叶わんなア。下の樽の口あけいな、抱めへんく、お神酒だけ取といたら可えのや、肴は要らへんわい、煮メなど出しとけ、いや組重や無いがナ阿呆。其重箱の方をその儘出しといたら宜えネ。好きな物を勝手に取て喰ふて呉れるワ、……それから夫處に紙に包だするやろ、夫れ持て来い……。」

「この人、紙に包だ物て何や」

「餅屋の祝儀やがナ」

「まあ嬉しい事、此近所は皆あも搦いてはるけど、餅屋に祝儀出してる内は一軒もあらへん、そこん處近所へ能ふ聽える様に云ふといて」

「諾しや……オイ餅屋はん、これ少いけど皆で良え様に分けといて……(飛で降りる)オイ皆這入てお禮申せ、良え親方や無いか、寒い依てに一杯飲ましたると仰有る、其上御祝儀まで下はるのや、皆お禮申せ……へい親方お内儀、御祝儀を大きに有難ふ存じます、——御祝儀大きに——御祝儀大きに——御祝——ジャバくくく」

「大きな聲やなア、……何やね其ジャバくくくちウのは」

「仰山同時に禮云ひよつた處や」

「そんな處せえでも可えがナ。耳がデヤンく云ふワ」

「……オイ、苦勞人やなア此家の親方は。盛ふたりせんと、重箱ぐちボンと放り出して呉れる。氣兼をせんと饗れられる様にナ……チョツと夫處まで氣の附く人は尠い……。辰ウ、己んちヨは何様してるネ。なに子供が出来たんか、フム男の子やて、左様かそら芽出度い……アー揃ふたやんれ——。揃ひまアしたアよ、加賀えーちぜーんウのね——、おかーごやアえ、廻りイの、エ——サマお陸尺よ——。エー、シンコツ、カンコツ、カンコウバイ、ナムアマミダブツは他力の法かい、トコトツサン、ア、ア——(欠伸)……」

「コレ、そんな所へ躡つて何してるのや、大便なら便所へ往きんか」

「チョイく相手になつたら叶わんなア。蒸しの上るまで釜の前で火にあたつてるのや、一杯饗れた處から佳え氣嫌になりよつて、鳥渡鼻唄もんや、これから粉のボテが間違ふた云ふて、掴み合ひの喧嘩しやる場面するね」

「コレ、そんな事搦いてや、本眞の喧嘩や思ふて、長家の人が出て來たら一遍に化けの皮が現れるがナ、早ふ搦いて仕舞ひなはれ」

「……オー臼を此方へ持て這入れ、ヨツシヨノ、ヨツシヨと、さア此處へ据え。……オイ、据えちウのに……、オイ臼を据えちウのに」

「何やね」